

## 第4学年 組 道徳学習指導案

1 主題名 友達のことを考えて (2-(3))

2 資料名 「絵はがきと切手」(中学年2-(3)信頼・友情 文溪堂)

### 3 指導観

○ 本主題は、友達と互いに理解し、信頼し、友情を深めていこうとする態度を育てることを主なねらいとしている。自分が困ったとき、自分のことのようになぐさめてくれる友達、また、自分に喜びがあるとき、共に分かち合える友達の存在はとても大きいものである。

そんな友達を前にして、忠告することは勇気のいることであり、それによって友人関係にひびが入ってしまうのではないかと考えがちである。しかし、本当の友情とは、お互いの長所を認め合い、信頼関係を築き、忠告があれば素直に聞き合うことができることである。

本資料は、料金不足の定形外郵便をもらったひろ子が、送り主である友達の正子に忠告をしようかどうかと迷う話である。兄の「教えてあげたほうがよい」という考えと、母の「お礼だけ言っておいたほうがいい」という言葉の間で心が揺れ動くが、仲がよかった今までの出来事を思い出し、「きっとわかってくれる」と考えて、教えてあげることを決意するという内容である。

ひろ子のように相手の立場になって真剣に考え、忠告すべきかどうか悩む経験は、共感ができるものの、自分の生活に置き換えたときに、本当に相手のためになる行動をとることは難しい。二つの考えの間で揺れるひろ子の心情に迫ることにより、自分を振り返り、真の友情とは何かを考え、さらに友情を深めていこうとする心情を育てたい。

○ 本学級の子どもたちは、友達と仲良くしていきたいという思いをもち、友達に対して親切にしようと行動している。しかし、自分の立場や気持ちを優先させ、自分に都合のよいことを主張したり、相手のことを考えずに不用意な発言をしてしまったりする姿も時に見られる。また、友達との付き合い方も表面的になりがちで、心から相手の向上を願って行動するという姿はまだあまり見られない。

そこで、相手の立場になって考え、たとえ言いにくいことであっても真に相手のためを考えて伝え合えることは大切であるということに気付かせたい。この時期の子どもたちは、一緒に遊んだり、活動したりできる友達を大切な存在として認識するのに適切であると思われる。

○ 本時指導にあたっては、相手の立場になって真剣に考え、忠告すべきかどうか悩み、自分を振り返り、真の友情とは何かを考え、さらに友情を深めていこうとする心情を育てるために、子どもたちがイメージできるよう挿し絵を提示したり、話し合い活動を取り入れたたりした授業作りを進めていきたい。

そのためには、導入段階において、友達のよさについて、これまでの経験を想起させ、本時のめあてにつないでいく。展開前段では、兄と母の二つの考えの間で悩むひろ子の心情を捉えさせることができるよう、場面絵を提示して場面をつかませたり、ハート図を取り入れたたり、小グループでの話し合いを取り入れたりする。展開後段では、自分の生活を振り返らせ、言いにくいことでも言った方が友達のためになるときがあるということに気付かせる。終末では、真の友情についての教師の説話を聞く。

4 本時の目標

- 友達と互いに理解し、信頼し、友情を深めていこうとする態度を育てる。

5 準備

教師：資料「絵はがきと切手」、挿絵、登場人物の絵、ハート図

6 展開

分	子どもの学習活動	教師の支援活動	めざす子どもの姿と評価
5	1 友達のよさについて話し合い、本時学習のめあてを確認する。	※ 友達のよさについて、これまでの経験をもとに想起させ、本時のめあてにつなげる。	○ 自分の経験を想起して発言している。 ・毎日一緒に遊んでくれる。 ・怪我をしたとき、声をかけてくれた。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     めあて                       本当の友達のよさについて考えよう。                 </div>		
5	2 資料「絵はがきと切手」を読んで話し合う。 (1) 教師の範読を聞く。	※ 状況把握をするために、挿絵を提示する。	○ 挿絵をもとに、どんな問題場面かをつかむことができている。
15	(2) 兄と母の意見を聞いて、迷うひろ子の心情について話し合う。	※ 自分の考えを視覚的に表現するために、ハート図を用いる。 ※ 対立する兄と母の意見がわかりやすいように、ハート図の下に対比させて板書する。 ※ 小グループで話し合い自分の考えを深めた後、全体で話し合う。	○ ハート図を操作し、主人公の心の葛藤に共感している。 ○ 兄と母の意見を聞いて、迷うひろ子の心情を、自分が登場人物になったつもりで考えることができている。
5	(3) ひろ子が手紙を書こうと思ったのは、どんな気持ちがふくらんだからなのか話し合う。	※ 手紙を書き始めたときのひろ子の心情を捉えるために、ハート図を使って、ひろ子の心情の変化について考えさせる。	○ 小グループでの話し合いにおいて、道徳的見方・考え方に広がりや深まりが見られる。 ○ 本当に友達のことを考えたからこそその行動だということを考えることができている。
13	3 自分の生活を振り返る。	※ 今までに友達に言いにくいことを言った経験や注意しようと思ったができなかった経験など、自分の生活を振り返らせる。	○ 自分の生活を振り返り、友達に対する接し方について、考えを深めている。
2	4 教師の説話を聞き、実践意欲をもつ。	※ 友達のことを考えて接しようという意欲をもたせるために、友達に言いにくいことを言ったときのことを話す。	○ 友達のことを考えて接しようという意欲をもつ。